

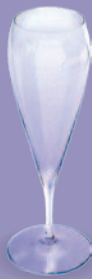
毎日のエネルギー源

忙しい毎日を栄養面で支えているのが、昼の手作り弁当だ。玄米ごはんは季節の温野菜、魚のしょうが煮は必ず入れているという。「魚は骨ごと食べられるよう、週末に1週間分まとめて圧力鍋で煮るんです。夫がね」。ちなみに秋田杉の曲げわっぱの弁当箱は、長男が初任給でプレゼントしてくれたもの。



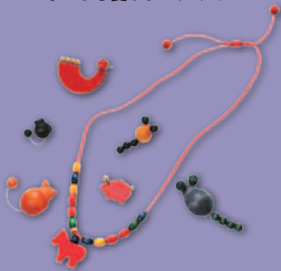
週末のお供

滑らかなフォルムと持ち手の細さがお気に入りのシャンパングラスは極薄グラスで有名な東京の老舗、木村硝子店製。週末には夕方の早い時間から、このグラスでスパークリングワインをたしなむという。「飲むたびに、ええグラスやあって悦に入っています」



冬のマストアイテム

ネコのブローチやブタのバッジ、ウマのペンダント…。フィンランドのブランド、アーリッカの動物をモチーフにした木製アクセサリーは世界中にファンが多い。20年ほど前に土産でもらって以来、シンプルながらも愛らしいデザインが気に入り、集め始めた。曰く「温かみのあるアクセサリーはセーターとよく合います」。寒くなるにつれて出番が増えるそうだ。



先生に質問!



持ち運びがラクラク!

愛用のソニー製ノートパソコンは655グラムの超軽量。「4年ほど使っていますが、これほど軽い機種には出会ったことがありません。手放せない一台です」。常にかばんの中に入れており、デスクでも出張先でも大活躍している。



アイ・ラブ・ビートル

フォルクスワーゲンのディーラーで一目惚れしたニュービートルは、限定色のレモンイエロー。12年乗り続けて、走行距離は何と27万キロ!「今のザ・ビートルは車高が低くてかわいくないの。この車が壊れたらどうしようかと心配で」。乗り始めたころ、リモコンのトランクボタンを押すとウインカーがパチパチと点滅するのがうれしくて、用もないのに押しまくっていたとか。



まつ むらきょう こ
松村京子 教授

学校心理・発達健康教育コース

大阪府出身。大阪大学大学院医学研究科修了。医学博士。主な研究分野は小児発達科学と生理学。平成7(1995)年に兵庫教育大学に着任。小1プロブレムの予防を目的に開発した「STARTプログラム」(医学映像教育センター発行)が全国から注目を集めており、加西市の幼稚園では就学準備の一環として導入されている。17(2005)年から21(2009)年まで附属小学校の校長も務め、21(2009)年からは博士課程研究主幹を兼務する。

Q 先生が作成された「STARTプログラム」とは。

A STARTはSocial Thinking & Academic Readiness Trainingの頭文字から取

りました。近年、授業中にじっと座っていられないといった小1プロブレムが注目されているように、感情や行動を抑制できない子どもが増えています。このプログラムは小学校入学前後の子どもが友人関係を築く基礎となるソーシャルスキングを習得することと、アカデミック・レディネス(学習準備)を整えることを目的としたものです。米国の先進事例を参考にしながら日本の教育現場用に作成した18レッスンをDVD4巻にまとめました。

Q 医学を専攻された先生は、教育の研究では珍しい装置をよく使われるそうですね。

A サーマグラフィーで感情の変化を見たり、唾液からストレスホルモンを測定したりしていました。最近では、眼球の動きを分析する機器を使って、授業中の教員の教授行動や教材のどこに子どもが注目するのか、教員は子どもどのよう動きに注目するのか、また、発達障害児や聴覚障害児、乳幼児の視線も調べています。テレビを見てもうっただけで簡単に測定できます。

Q ゼミ生の研究にもさまざまな方法を提案するのですか。

A ゼミ生の今までの経験をできるだけ生かし、私が持っている手法をうまく使ってユニークな研究を楽しめることができるよう心がけています。